

学生から見た都農町の実態と提案

宮崎大学地域資源創成学部1年 4班

～都農町の現状～

都農町は「第二の夕張」と呼ばれていた。しかし、「道の駅つ」の設立によって新たな雇用を生み出したことで町民の所得増加を図ることで町の税収を上げることに繋がった。また、町立病院の建て替え事業では、高度医療の充実ではなく、町民の健康づくりという視点を持つことで、町民の健康促進を図り、町民・町経済の両面の医療費の削減に繋がった。このように都農町にとって改善された部分もあるが、課題も多く残っている。いまだに町民のやる気や活気が不足していると感じることがあったり、旧10号線の道路の整備や空き家・空き地の問題、シャッター街の活気の創出など多くの課題が残っている。

○中心市街地

テーマ：旧10号線沿いの活気の創出

《ヒアリング》

旧10号線の通りにある3つの店を訪問し、聞き取り調査を行った。

①花みず木



花みず木

＜ヒアリングの調査内容＞

今の店で利益を出そうという考えはないが、花みず木はリピーターのお客様が多いため、できるだけお店を残していきたいし、商店街も存続させていきたい。どうかして旧10号線の活性化を図ってほしい。という声を聞いた。

課題：駐車場不足、旧10号線の活気不足

⇒町外からのお客様が多いため駐車場が足りないという問題が挙げられた。また、旧10号線の盛り上がりがないため何かイベントを行うことで盛り上げて欲しいという意見があったため、活気の創出が課題であると考えた。

②BUNMEI



BUNMEI



BUNMEIで販売されているケーキ

＜ヒアリングの調査内容＞

女性店員さん

都農町は子育てをする上で非常に良い環境である。
Ex) 幼稚園の入園料無償
医療費中学生まで無料
BUNMEIでは高齢者に向けたdサロンが行われており、訪れる方は車で来ることが多い。

サッカー選手（地域おこし協力隊）

午前中はサッカーの練習、午後は地域おこし協力隊の活動を行っている。地域おこし協力隊では、デジタル班・農業班・スクール班など分かれて活動している。地域の活動に積極的に参加することで、そこで関わりを持った人々がチームを応援してくれる。

課題：駐車場不足、子どもの遊び場不足

⇒dサロンで訪れる高齢者は車の方が多く、店の駐車場では狭く場合によっては、少し離れた駐車場に停めてきてもらうことがある。また、子育ての面で、医療費や幼稚園の入園料無償など金銭的な部分では充実しているが、子どもが遊ぶような遊び場が少なく、小学生の子供が自宅で遊ぶしかない状況にある。

③TAKARADA FLOWER



TAKARADA FLOWER

＜ヒアリングの調査内容＞

子育てについての政策について、とても充実していると感じている。後継者については、花屋としてはこの先、花の需要がなくなっていくと考えているため、必要ないと考えているようだ。また、以前助成金をもらったため実績報告のためにSNSを利用して情報発信を行っていたが、助成金の受諾を受けると面倒になってしまいやめてしまった。実際には、活用方法があまりよくわからなかった。という声を聞いた。

課題：商店におけるSNSの活用方法

⇒ヒアリングの中で印象に残っていたお話がSNSの利用についてであった。ターゲットを地元だけではなく、地元の外の人々や海外の人へと広げることができたらいいかもしれないという言葉を受けて、このような考えを持つ商店におけるSNSの活用について考えていくべきだと感じた。

＜提案＞

・空き地の利用



花みず木、BUNMEIの2か所のヒアリング調査から「駐車場不足」という問題が挙げられた。このことから、現在使用されていない空き地を利用して整備された町としてコインパーキングを建設することを提案する。例えば、200円で設定するとして店舗で買い物したら駐車場代を割引にする、または無料にするという旧10号線沿いの店舗との提携も行う。

・地元の商店&企業向けdサロン



TAKARADA FLOWERでのヒアリング調査から「SNSの利用」について活用方法が分からないという意見を聞いた。SNSでの情報発信を行うことで、都農町内外に向けて広い情報発信を行うことができる。しかし、その方法は誰かに教えてもらうという機会が少ないためうまく活用できないことが多い。そこで、デジタルフレンドリーでの活動の一つである「dサロン」をSNS活用に視点を置いた商店&企業向けのものとして行うということを提案する。

○木和田地区

テーマ：木和田地区と学生の関わり

《ヒアリング》

木和田公民館・スイートピー農家・佐藤酒店での聞き取り調査を行った。



木和田公民館



スイートピー農家（黒木さん）



木和田地区の棚田の景観

＜ヒアリングの調査内容＞

○木和田地区について

木和田地区に居住している人々の平均年齢は65歳で、高齢化が進んでいることが分かる。この地区に住む方は直営所や道の駅に野菜などを持っていき、その収益を主体として生計を立てている。木和田地区での生活について、現在宅配サービスが充実しているため、買い物できない状況にあるというわけではない。しかし、町の方に買い物に行く場合は福祉バスがあるが、高齢者は福祉バスを活用しきれていないのが現状である。また、木和田地区には棚田があり、壮大な景観がある。これを地域の住民が維持している。

○外部との関わり

宮崎大学SUZUNARIとの関わりについて、空き家の改修作業を行っている状況であるが、月に1回の頻度でしか来ることができていない状況である。どのようにしたら木和田地区の人々との交流の機会が増えるかをこれから考えていくべきである。指摘として、大学生はあくまでよそ者であり、いきなり地域の重要な行事に参加するのではなく、日常の何気ない活動への参加をしていくべきであるという意見があった。

課題：景観の保存・活用、外部との関わり方

⇒木和田地区が持つ地域資源として「棚田」が挙げられる。日本全国で農業遺産としての棚田の保存が多く行われている。木和田の棚田を農業遺産へ！ということではなく、景観の保存を行いそれを観光資源などにすることで木和田を知ってもらえるきっかけになると考える。また、外部との関わりについて、ヒアリングの中で木和田の中でのよそ者意識があるということを知った。その意識を少しずつでも変えていく必要があると考えた。

＜提案＞

・木和田棚田保存会

木和田地区には棚田があり、その保存についての話題がヒアリングの中で出てきた。棚田は壮大な景観が魅力的である。しかしそれだけではなく、土砂災害の防止の役割を果たしたり、洪水を起りにくくするといったメリットがある。そのため、棚田の保存は木和田地区の防災としての役割を担うものであり、これから先も残していく必要のある資源である。

そこで「木和田棚田保存会」を学生と共同で発足することで、上記であった学生が普段から日常の何気ない活動に参加するということにも繋がるのではないかと考えた。具体的な活動内容としては、①棚田における田植え作業や、維持のための作業の手伝いを行う②棚田の景観を一望できるような場所を整備する、といった活動を行うことで、「棚田の保存、地域住民と学生の繋がり」の創出、観光資源の創出を同時に行うことができる。

★木和田棚田保存会について

木和田地区の棚田の所有者の方を中心とした団体の結成を行う。棚田はいわゆる稲作地のため、米作りが保存することに繋がる。学生はこの米作りに参加するという形で保存会に関与していく。

＜米作り流れ＞

①土づくり②種・苗の準備③田植え④管理・除草⑤追肥・水抜き⑥収穫・乾燥

＜活動内容＞

保存会の活動として月に一回の定例会を木和田の方と学生で行い、どのようなスケジュールを進めていくのか計画を立てる。その中で、田植えや収穫の作業は学生でも参加ができる。



千歳県鶴岡市・川代棚田での田植え体験

引用文献

- 1) Ecotopia編集部、棚田のメリットとは？伝統的な農業に学ぶ持続可能な生活 <https://ecotopia.earth/article-366/>（2023年1月25日入手）
- 2) 特定非営利活動法人棚田ネットワーク、千葉県鴨川市・川代棚田で田植え体験を実施しました。 <https://tanada.or.jp/blog/2017/05/04/3336/>（2023年1月25日入手）